



## 創立の背景と歴史

アメリカ聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズによって、1874年(明治7)2月東京・築地の開市場内に聖書と英学を教える私塾が開校されました。同年12月にこの私塾が「立教学校」と称するようになります。立教学校は火災での焼失なども経た後に、建築家でもあったジェームス・マクドナルド・ガーディナー校長のもとで、居留地37番に本格的なレンガ校舎を建築し、1882年(明治15)12月に移転しました。新校舎には「立教大学校」の名を掲げ、高等教育を目指す姿勢がここに示されました。

1890年(明治23)に校名を「立教学校」に戻し、1896年(明治29)に立教尋常中学校を設置(1899年(明治32)に立教中学校に改称)、立教専修学校を併設しました。これに続き1897年(明治30)には東京英語専修学校を設置しました。その後、「訓令第12号」といった政府による宗教教育への規制を受けることとなりますが、アーサー・ロイド立教学校総理を中心とした首脳部は、立教中学校、立教専修学校、東京専修学校及び寄宿舎の4部門を「立教学院」と総称することでこの難局に対応しました。

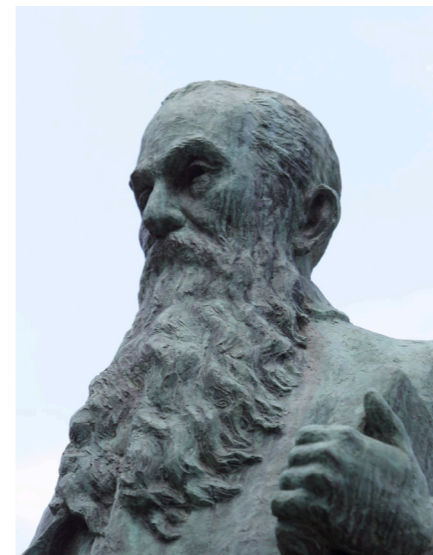
ロイドの後を受けて学院総理となったヘンリー・セントジョージ・タッカーを中心に、立教の大学昇進運動が具体化し、1907年(明治40)に専門学校令により、「立教大学」が発足し、文科、商科及び予科をもって開校しました。さらに本格的な高等教育機関となるべく、大学用地を求め、タッカーの後任であるチャールズ・シュライバー・ライフスナイダー総理のもとで、池袋に本館・図書館・寄宿舎などが1918年(大正7)に完成、翌年5月に落成式を行ないました。そして厳しい設置手続きや財源問題を乗り越え、1922年(大正11)5月に立教大学は大学令による正式の大学と認可されました。

キリスト教の学校として、苦難の戦時期を送った後、1946年(昭和21)に大学総長、工業理科専門学校校長、中学校校長として佐々木順三が就任し、立教学院の改革と復興に邁進しました。

1948年(昭和23)には新制の中学校・高等学校を発足させ、さらに小学校も設置しました。そして大学は、翌年の新制化により、文学部(キリスト教学科、英米文学科、社会科、史学科、心理教育学科)、経済学部(経済学科、経営学科)、理学部(数学科、物理学科、化学科)の構成となりました。その後1958年(昭和33)に社会学部、1959年(昭和34)に法学部を設置しています。

1990年(平成2)には新座キャンパスを開校、各学部の1年次生が週に一日ずつ授業を受けるという形態を取り、大学は2キャンパス時代を迎えました。その後、1990年代から2000年代にかけて新たな五つの学部を設置し、現在に至ります。立教学院が常に標榜してきた「リベラルアーツ」教育の一つの形をここに示したということであり、「専門性を持った教養人」を育てるという構想は、現在まで受け継がれています。

136年前にウィリアムズによって蒔かれた種は、幾多の波を受けながらも、立教学院という名のもとに今日まで確かな成長を遂げています。



創立者 Channing Moore Williams (1827~1910年)  
アメリカ聖公会の宣教師として、立教学院の前身となった立教学校をはじめ、多くの学校を設立しました。



## 創立

創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズは1829年(文政12)7月、アメリカ合衆国南部のヴァージニア州の州都リッチモンドに生まれました。アメリカ聖公会ヴァージニア神学校を卒業後、中国派遣宣教師に任命され、1856年(安政3)6月に上海に赴任し、東洋における伝道を開始しました。そして、1859年(安政6)に遣日宣教師として来日、長崎に居住し、伝道に努めました。来日後短期間で、日本人から日本の宗教、文化、生活習慣、時事情報を吸収し、また日本語も習得し、来日2年半で主祷文、使徒信教、十戒の三要文を翻訳しました。

その後一時帰国し、1865年(慶応元)にアメリカ聖公会のシナ及び江戸監督に任じられ、再び来日して大阪において伝道を行なった後、1873年(明治6)に東京に移り、伝道の拠点を開設しました。そして1874年(明治7)2月、築地の開市場内に私塾を開校し、同年12月には「立教学校」の名も使われ始めました。この私塾が立教学院の始まりです。

日本を愛し、日本伝道は日本人聖職者によるべきと考えていたウィリアムズは、立教学校のみならず多くの教会、学校を興こして若者たちを育てました。そして1887年(明治20)には日本聖公会を組織し、初代主教となりますが、わずか2年後には主教の職を後進に譲り、一介の宣教師に戻って関西各地で伝道に尽力しました。その後、老齢により東洋での伝道が終わりを迎えたと悟ったウィリアムズは、1908年(明治41)にアメリカへの帰国の途につき、翌々年の1910年(明治43)12月に故郷リッチモンドで永眠しました。

ウィリアムズは、日本滞在時のほとんどを学校の室内や教会の尖塔で寝起きし、擦り切れるまで同じ衣をまわっていたといわれています。そうして蓄えた財は、学校や教会の建設、福祉事業などのために投与されました。また日本を立つときには、日記や書簡など自分にかかわるものをすべて焼き尽くし、残しませんでした。数々の功績と献身的な働きを行ないながらも、後に日本聖公会の信徒がウィリアムズへの思いを碑文に記した通り、「道を伝えて己を伝えず」という生涯でした。

## 建学の精神

創立時から、キリスト教に基づく人間教育をうたってきた立教学院の精神は、シンボルデザインの楯のマークに書かれた標語、「PRO DEO ET PATRIA (神と国のために)」に表わされているといえます。神という人知を超えた英知の前で敬虔な気持ちを持ちながら真理を探究していくことは、立教で学ぶものにとって普遍に求められることです。そしてまた自身が体得した知恵や知識は、自身の立身出世のために使うのではなく、共に生きる人々のために使うことを求められているのです。

現在の立教学院は小・中・高・大の一貫連携教育を進める中で、学院の共通の目標として「テーマを持って真理を探究する」「共に生きる力を育てる」の二点を掲げています。これは先に挙げた創立時の精神をいままも実践し、「この世界、社会の隣人を愛し、共に生きる人間を育てよう」とする学院各校の姿勢を示していることに他なりません。



立教学院 校章・マーク  
2009年度に、立教学院全体のブランドイメージを統一させた新デザインに生まれ変わりました。楯の中に立の文字、その下に十字架、開かれた聖書とその中の標語「PRO DEO ET PATRIA」が描かれています。

## 学校法人 立教学院

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

TEL : 03-3985-2202 FAX : 03-3985-2827